



2005.5.5 会報 NO.7

発行：共生環境塾

028-8201 野田村野田 22-114-56 (事務局)

<http://www.ansa.biz>

ご意見は enya@ansa.biz まで



4月29日久慈川河口 (湊橋下流500m)

「ぐりーんアップ作戦」無事終了!!

久慈地方振興局・久慈市・山形村の後援、ほか 12 団体との共催は 50 人余の参加者。20 日に達する強風下 (船からの掃除は中止)、400 枚のゴミ袋が無くなり、困難な清掃作業 2 時間は大変ご苦労様でした。わざわざ盛岡から参加の川村会員、間違えて前日来てしまった園田会員は二日続きの♪湊橋ブルース。山形からは村長さんの娘さんが参加、先に詩集を出したとは思えない力仕事?ぶり。ボーイスカウトの皆さん、野田村から軽トラで参加、資材やゴミ運搬の飲み仲間岩山さんもホントにありがとうございました。捨てるゴミが無くなるよう関係者や企業などに「意見と要望」を送りました。



高山会員 VTR 撮影ご苦労様でした。

Pho は大量のゴミに苦戦する二人と「コンブ・コハク」KK コンビ。

でも良い仕込みをすればうまい酒が出来るのだ。

出来る施設だ。

良い知恵とはいかにもシンプルなのだが、それを金がないと片づけるのは、足りぬ足りぬは工夫が足りぬ。地方はその環境がそれぞれ違う、人のまねごとは禁物なのだ。

年を取ったとは古い頭になったこと、古き酒樽

久慈地方の不景気は深刻なようだ。会員の会社関係でも事業の縮小はさけられず、仕事の確保は難しさが増している。

編集後記

5月2日岩手日報は知事の10年の総括をして、言葉と実際の施策が一致していないと手厳しい。共生環境塾会員の具体の行動は森林、コンブ、穀物を生かす技術の実践である。コンブブロックは出来た。農業は良い肥料を作り供給出来るかである、横原会長に期待したい。久慈地方の森林(人工林)の生長量は有り余っている、それを利用するには貯木施設が必要だ、廃材や場合によってはコンブなどの残滓も含めエネルギーや資源に転換出来る施設だ。

2005.4.29 共生環境塾総会開報告

新役員体制決まる

会長	横原 実
副会長	下嶽 毅
事務局長	中野雅幸
事務局	川村晃寛
幹事	園田和夫
同	高山賢一
同	黒沼忠雄
同	橋上 智
同	谷地 譲
同	岩井桐子
監事	蒲野秀雄
同	長内健一

総会内容要旨

平成16年度事業・決算報告

環境を生かした地域振興策の提言ほか
・森と湖の旬間協力・ツリークライミング講習会・会報の発行…など

主な活動は以上の通り、決算書と共に承認されました。

会費の徴収は初年度以外は寄付金、事業収入のみで運営していくことを確認、未納の方は何卒早めに納入下さい。

また、資金活動にもご協力を。社会的に認知されない会は消滅する。退路を断って活動します。

平成17年度活動方針

- ・森と湖の旬間協力 (県滝ダム)
- ・ともだち川・交流事業の実施 (補助金申請中)
- ・海中林の造成研究とバイオマスエネルギーの利用促進方策の推進
- ・文化事業への協力
- ・環境調査及び改善 (安家川・久慈川ほか)